

平成 29 年度第 2 回 子ども・子育て会議 会議録

平成 30 年 3 月 8 日 (木) 16:00~17:00
今治市役所 第 1 別館 10 階 , 101 会議室

平成 29 年度 第 2 回今治市子ども・子育て会議 会議録（概要）

- 1 日 時 平成 30 年 3 月 8 日（木） 16:00～17:00
- 2 会 場 今治市役所 第 1 別館 10 階 101 会議室
- 3 報 告 施設選定部会より
教育・保育部会より
- 4 出席者 【委 員】 14 名
泉 浩 徳 委 員、松本修平委員、檜垣秀子委員、御堂和貴委員
橋本直行委員、龍田三津子委員、福田安民委員、清水正恵委員
村上正親委員、松尾直紀委員、矢野信子委員、松本義秀委員
黒田順子委員、山中志穂美委員
【事務局】 15 名
福祉政策課長、障がい福祉課長、子育て支援課長、保育課長
学校教育課長、健康推進課長補佐、子育て支援課長補佐 2 名
保育課長補佐 2 名、保育課給付係長、子育て支援課こども福祉係長
子育て支援課こども健全育成係長、子育て支援課子育て支援係主査 2 名
- 5 欠席者 【委 員】 4 名
森一男委員、久米真佐美委員、梶原淳一委員、渡邊美幸委員

6 会議内容

会 長	当会議の開会
会 長	新任委員の紹介 (松尾直紀委員)
新任委員	自己紹介
会 長	議事録署名委員に清水正恵委員を指名
会 長	次第 2 部会報告に進み、施設選定部会の報告を求める。
事 務 局	資料 1 に基づき、平成 29 年度第 2 回今治市子ども・子育て会議施設選定部会の報告を行った。 平成 29 年度幼保連携型認定こども園整備助成事業補助対象候補者の選定

	<p>について</p> <p>1 整備助成事業補助対象候補者 学校法人みどり幼稚園を選定した。</p> <p>2 募集概要 南中学校区内で幼保連携型認定こども園として、保育が必要な3歳以上の2号認定、同じく3歳未満の3号認定を合わせて100名程度を整備できる事業者。 応募者として、みどり幼稚園1業者の応募があった。</p> <p>3 審査の概要と結果 みどり幼稚園によるプレゼンテーションを実施する。 あらかじめ定めた審査項目を評価し、審査基準ごとに総合評価する総合点数方式により審査を行った。 審査項目は、6つの区分、全部で20項目とした。 みどり幼稚園に対する審査結果は、6つの区分ごとに委員3名の平均を集計した結果、150満点中124点であった。 審査中の委員の意見 「すべての面において、理念をしっかりと持っている。」 「教育理念において、真摯に取り組んでいると感じた。」 「アドバイザーがいるとのことで内容をよく理解し取り組んでいるところが素晴らしい。」</p> <p>平成29年度病児保育施設整備助成事業の募集状況について 平成29年7月24日から8月25日までの事前申込書の受付期限を、9月29日まで期限を延長したが、応募業者はいなかった。 病児保育事業は、本年度4月より、あおい小児科のキッズケア青い鳥で実施しており、本市としては、子ども子育て支援事業計画に基づき、2つ目の病児保育施設の募集を引き続き行う。</p>
会 長	委員に質問、意見等を求める。
会 長	幼保連携型認定こども園整備助成事業補助対象候補者の最低基準はあるのか。
事 務 局	最低基準はない。点数が著しく低い場合は、委員により審査をした上で判断していく。
会 長	病児保育施設整備助成事業の今後の予定を教えてください。

事務局	病児保育施設整備助成事業については、昨年度と今年度と募集がない状況である。現状を分析調査し、引き続き募集を行う。
会長	なぜこのような状況なのか。
事務局	今治市では初めての事業ということもあり、継続してできる事業かどうかの見極めが必要であり、市民に対して、病児保育事業への理解及び利用促進を更に進める必要があると考えている。
副会長	青い鳥の利用状況はどうなっているのか。 実際の使用状況が増加してきているとか、ニーズは絶対にこれだけあるというようなことがあれば、応募する方もでるかもしれない。
事務局	事前登録については、約 1,100 件である。実際の利用は、2 月末現在で延べ数約 400 名である。 事前登録については、周知できてきていると思うが、実際に利用する際は祖父母に預ける場合が多い。今後、病院・小児科に預ける方が安心であると周知していきたい。
会長	次に教育・保育部会について報告を求める。
事務局	資料 2 に基づき、平成 29 年度第 2 回今治市子ども・子育て会議教育・保育部会の報告を行った。 平成 30 年度特定教育・保育施設の利用定員の設定について 提案理由は、特定教育・保育施設の利用定員を定める場合は、子ども・子育て支援法第 31 条第 2 項の規定により、あらかじめ子ども子育て会議の意見を聞かなければならないことによる。 [新たに新制度に移行する幼稚園] ・近見虎岳幼稚園 1 号定員 120 名 [認定こども園] ・はしはまこがく認定こども園 波止浜虎岳幼稚園が平成 30 年 4 月より認定こども園に移行。 1 号認定 105 名 2 号認定 76 名

	<p>3号認定0歳児 6名 1~2歳児 38名</p> <p>4月で閉園となる公立波止浜保育所の利用定員が100名で、地域の保育の受け皿となるはしまこがく認定こども園の2・3号認定利用定員が120名となっており、これまでよりも充実する予定である。</p> <p>【保育所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今治虎岳保育園 利用定員を90名にする。
会 長	委員に質問、意見等を求める。
会 長	波止浜区域に非常に限定されているが、ニーズ調査等によりこの区域で何か特別な理由があり、認定こども園化を進めているのか。
事 務 局	波止浜区域に特化しているわけではなく、今治地区において、認定こども園化及び民間への移行を進めている。基本的に中学校区域を一つのエリアとして、そこにある保育施設及び幼稚園施設の状況をみながら決めている。したがって、前回は立花中学校区域で清心幼稚園、今回は、波止浜・北郷中学校区域で波止浜虎岳幼稚園、2年先には、南中学校区域のみどり幼稚園とここまでが決まっている状況である。
副会長	今一度、利用定員の1号2号3号の区分をわかりやすく説明してほしい。
事 務 局	<p>1号認定は、保育は必要なく、就学前の準備段階としての幼稚園に通う子ども。</p> <p>2号認定は、共働き家庭であったり、いろいろな事情によって、家で子どもを見れない、保育が必要な3歳以上の子ども。</p> <p>3号認定は、保育が必要な3歳未満の子ども。</p>
会 長	次第3 その他に進み、委員質問、意見等を求める。
事 務 局	<p>来年度以降の会議の予定について</p> <p>来年度から、次の5か年計画となる32年度から36年度までの子ども・子育て支援事業計画を策定するための作業に入る。平成30年度にニーズ調査を行い、その結果を基に平成31年度で次の5か年計画を作るス</p>

<p>会 長</p>	<p>ケジュールとなっている。来年度は、当会において、ニーズ調査に係る協議を行う。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>ニーズ調査の対象と方法について具体的に教えてほしい。</p>
<p>会 長</p>	<p>前回については、平成 25 年 11 月 13 日から 11 月 27 日までの調査期間を設け、就学前児童の保護者を無作為に抽出し 3,000 人を対象に調査を行った。これを参考にしながら検討していく。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>前回のニーズ調査で病児保育の施設数が 4 件となった。数字の信憑性は大丈夫か。</p>
<p>松本義秀委員</p>	<p>前回の調査は、このようなものがあつたらいいなという純粋な調査、無作為に調べた調査であり、前回、計画の数値の見直しを行った。ニーズが高くなっており、そのままニーズとすることに関しては、吟味が必要であると考えている。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>今治市では待機児童がいるのか。</p> <p>今治市の待機児童は、10 月 1 日現在で 8 人いる。</p> <p>待機児童に関する国の定義が変更となり、それに合わせて今治市の待機児童に関する定義を見直した。変更点は、育児休業を取っていて、保育所に入れられないため、育児休業を延長する方を今までは待機児童としてカウントするかどうか決まっていなかったが、今年度の 10 月より待機児童としてカウントすることになった。</p> <p>10 月 1 日時点で 8 人中 6 人が育児休業を延長した状況である。平成 30 年 4 月の状況については、入所の調整しているところである。入所については、入れ替わりがある 4 月が一番少なく、右肩上がりに増える傾向にある。</p>
<p>会 長</p>	<p>何歳児が多いのか、待機児童の内訳を教えてほしい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>待機児童ではありませんが 1 歳児・2 歳児が昨年 4 月に比べ、確定の数字ではないが約 36 名増えて、3 歳・4 歳・5 歳児が 20 人減っており、入所自体が低年齢化している。保育士の配置基準は、3 歳児・4 歳児・5 歳児と年齢が上がるにつれて、保育士の基準が緩やかになり入りやすくなる。</p>

	<p>従って待機児童も低年齢化している。</p>
<p>会 長</p>	<p>育児休業延長以外の2人はどうなったか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>一般的なケースとして、認可外の託児所に預けたり、自営業で祖父母などと協力して見ながら仕事をするなど、いろいろなケースがある。</p>
<p>会 長</p>	<p>企業主導型や小規模保育は、今治市ではどうなっているのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>企業主導型については、国が直接、補助金のような整備費を出して、企業が独自に保育所を作り、従業員の子どもや働いている人の子どもを主に預かる形態である。今現在はないが、4月より1か所企業主導型の保育所ができる予定である。小規模保育は今治市に2か所ある。事業所内保育事業所は、先ほどの企業主導型とよく似た制度及び施設で、企業が作り、市が運営費を補助する制度で、医師会で運営している「エンゼル保育所」、瀬戸内海病院が運営している「おひさまえん」の2か所がある。</p>
<p>会 長</p>	<p>企業主導型は具体的にどこがするのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>今現在、ヤクルトの系列になる認可外施設である「ナーサリースクールガジャ」が、企業主導型に切り替える予定。</p>
<p>会 長</p>	<p>今後の市の方針は、認定こども園と小規模保育の両方を進めていくのか。認定こども園を進めていく中で、0・1・2歳児の充実を図るのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>今現在、公立保育所の再編を進めているところである。今治市内といってもエリアが広く、旧今治市内の状況と島しょ部の状況と全く取り組みを同じようにはできない状況なので、旧今治市内については、民間の活力を借りながら、認定こども園化を進めていく。島しょ部については、幼稚園がないので、認定こども園として5カ所整備している。そういったことから、地域によって、その取り組み状況は変わっているところである。</p>
<p>会 長</p>	<p>当会の閉会</p>

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 泉 浩 徳 

署名委員 清 水 正 恵 